「あやぎぬ頌」より　　千葉絹子さん　（No.2）

○落ちない口紅他人行儀なことを言う

○こうとろことろ別姓論は皿の外

○上り框でするりポリシーずり落ちる

○水切れの鱗が苔になる時間

○受け皿の位置で酸素が薄くなる

○辻褄の合わない位置に立っている

○愛想笑いはいらないコンビニの灯り

○透明な時をつるりと心太

○顳顬にとろりと噛めぬ飢えを置く

○不本意な呼吸はしない造花たち

○消去法私が不透明になる

○視野狭窄塀は縦割りに走る